

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社名鉄クリーニング		
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋市西区貴生町312番地		
工場等の名称	株式会社名鉄クリーニング 本社・工場		
工場等の所在地	愛知県名古屋市西区貴生町312番地		
業 種	生活関連サービス業、娯楽業		
業務部門における 建築物の主たる用途	工場		
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）		
事業の概要	クリーニング業		
計 画 期 間	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

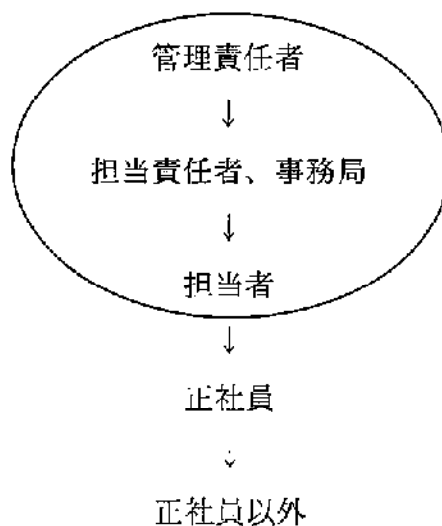
公 表 期 間	令和6年7月22日 ～ 令和6年10月20日		
公 表 方 法	○	掲示 閲覧	（場 所） 本社事務所
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-501-5511		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- 1 省資源化、省エネ化及びリサイクル化を推進し、限られた資源の節約に努めます。
- 2 環境負荷の低減を図ると共に、環境汚染の未然防止に努めます。
- 3 全従業員が環境保全のために積極的に行動し、健康で、安全、快適な社会作りに貢献することに、喜びを感じる「環境文化」を醸成します。
- 4 環境関連の法令・条例及び当社が合意した地域利害関係者の要求事項を遵守します。
- 5 この環境方針を基に、当社の経済的・技術的に可能な範囲で、環境目的及び目標を設定し、推進します。環境目的・目標は「環境監査」「経営層による見直し」により定期的に見直しをし、継続的改善を図ります。
- 6 この環境方針を、全従業員及び当社のために働いているすべての人に周知します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,548	t-CO ₂
①を除外した温室効果ガス排出量（炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	2,548	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対基準年度）			%		%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対基準年度）					%		%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	193	kg-CO ₂ / 千点	160	kg-CO ₂ / 千点	172.8	kg-CO ₂ / 千点	165.5	kg-CO ₂ / 千点		kg-CO ₂ / 千点
削減率（対基準年度）			17.1	%	10.5	%	14.2	%		
原単位あたりのみなし排出量					170.7	kg-CO ₂ / 千点	163.8	kg-CO ₂ / 千点		
削減率（対基準年度）					11.6	%	15.1	%		

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和6年度の目標値に対しては未達成であったが、様々な取組みの成果もあり原単位の削減ができた。中でも産業工場のレイアウトを見直した事による省エネ効果は大きく、今後も設備更新の際には、省エネ効果を得られる機械の選定に努める。
(ガス使用量原単位 令和4年度154.6m³/t → 令和5年度139.2m³/t)

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
工場の製造工程における対策	生産方法・体制を見直し、ボイラー運用及び生産機械等の効率的な稼働による削減。	ガス使用量原単位で削減する。	令和4年度154.6m ³ /t → 令和5年度139.2m ³ /tに削減。
省エネルギー・省資源の行動実践・照明	昼休み、残業時には不必要な照明を消す。	省エネを意識した行動を実践する。	・昼休み時の当番者及び残業者による不必要な照明の消灯を実施。
省エネルギー・省資源の行動実践・OA器機	パソコン、プリンター等の不使用時、退社時には電源を切る。	省エネを意識した行動を実践する。	・事務所退出時におけるスイッチオフの実施。
自動車等輸送機関に関する対策	アイドリングストップなどエコドライブの推進。 タイヤの空気圧など、こまめな点検・整備。	省エネを意識した行動を実践する。	・急発進、急ブレーキ等をしないエコドライブの実施。 ・点検時及びガソリン給油時による空気圧のチェックを実施。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
平成25年度	太陽光発電（A棟）	定格出力22kw、発生エネルギー量 24,316kWh
平成25年度	太陽光発電（B棟）	定格出力48kw、発生エネルギー量 46,973kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力	太陽光発電	27.0 t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

27.0	t-CO ₂
------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・会議資料の両面印刷やチェック用印刷及びメモ用紙等に裏紙を利用し、紙使用量の削減を実施。 ・電子共有フォルダ利用によるペーパーレス化を実施。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・空調機のフィルター清掃による節電。
--